

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

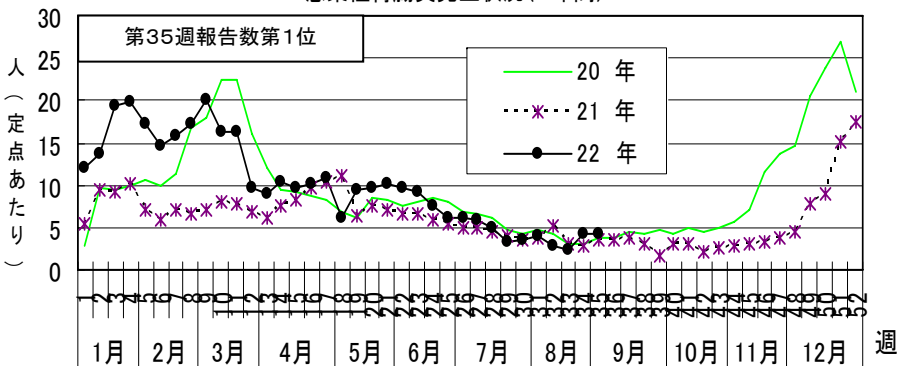


KAWASAKI CITY

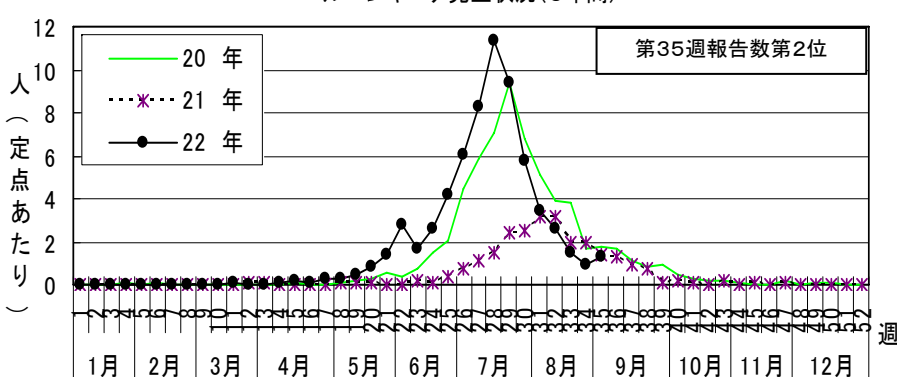
平成22年8月30日（月）～9月5日（日）〔平成22年第35週〕の感染症発生状況

第35週で報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)突発性発疹でした。
 感染性胃腸炎は定点あたり4.30人と前週（4.30人）と同じ定点報告数となっています。ヘルパンギーナは7週ぶりに患者報告数が増加しておりますが、ほぼ例年並みの水準となっております。
 百日咳の報告が多摩区から3件（20歳以上2名、9歳1名）ありました。百日咳は、重症化しやすい乳児に感染させないよう家族内感染等に注意が必要です。
 腸管出血性大腸菌感染症の届出が3件ありました。特に症状が出やすい小児や高齢者については、肉を食べるときには十分に加熱をしてください。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



～<秋>ポリオ(急性灰白髄炎)予防接種～

川崎市では、春と秋にポリオの予防接種事業を実施しています。対象は生後3か月～90か月に至るまでの間で2回接種が済んでいないお子さんですので、対象の方は予防接種を受けましょう。

ポリオの症状は！？

ポリオの潜伏期間は4～35日間（平均15日間）です。感染しても、90～95%の方は無症状でおわり、一生抵抗力（終生免疫）が得られます。

症状が出る場合でも、ほとんどが風邪のような症状でおわりですが、感染者の約0.1%が典型的な麻痺を起こします。さらに麻痺症状が進行し、呼吸困難により死亡することもあります。

予防接種について

ポリオに対する有効な治療法はないため、ワクチン接種によってポリオウイルスの感染を予防する事が最も重要です。日本では2回接種方式で経口生ポリオワクチン（0.05ml程度の液体を飲む）を使用しています。

接種時期

春と秋に実施しています。日程については、秋は9月から11月にかけて実施しますが、詳細についてはお問い合わせください。受付時は午後1時から午後2時50分までです。

他の予防接種との接種間隔

BCG、麻しん・風しんの予防接種から27日以上、ジフテリア・百日せき・破傷風の3種混合、日本脳炎予防接種から6日以上あけてください。

ポリオワクチン注意事項

注意すべき副反応として、ワクチンによってポリオ様の麻痺が発生したり、さらに、接種を受けた人の便等により、周囲の免疫を持っていない人へ感染（二次感染の発生）したりすることが極めてまれにあります。これは、ポリオの生ワクチンに含まれるウイルスが腸の中で増殖するうちに毒性が強くなることがあるためです。

予防接種を受けた人から接種後15～37日間（平均26日間）にわたってウイルスが便中に排泄されますので、布オムツの洗濯は他のものと別にし、またオムツ交換の後は十分に手洗いをするなど注意してください。さらに接種後一週間はお子さんの口の中にもウイルスが存在しますので、よだれが付いたら手を洗いましょう。

※予防接種に関するお問い合わせは各区役所保健福祉センター地域保健福祉課へお問い合わせ下さい。

昭和50～52年生まれの方は、ポリオの免疫保有率が低いことから、お子さんと一緒に予防接種を受けることができます。御希望の場合は事前に各区役所地域保健福祉課までお問い合わせ下さい。

